
鳥類からの環境評価

— 鳥の進化をふまえて —

江崎保男（兵庫県立大学/人と自然の博物館）

環境に限らず、私たちに関わることで重要なことはすべて、時間軸で、言い換えると<歴史を踏まえて>評価されねばなりません。歴史を踏まえない<評価=価値づけ>は不可能だからです。たとえば、とある技術の価値は、時代のなかで評価されます。誰も考えなかったすぐれた技術を編み出すのと、誰かがすでに編み出した技術を模倣するのでは、その評価は異なってしまうべきです。これは科学や文化においてもまったく同じで、そこではオリジナリティー（独創性）が重要視されます。ただし、独創的な発想というのは必ず歴史をもっていて、先人の発想の中にその源が必ずあります。人はそういう文化的歴史・伝統の流れのなかで生きているのです。

本講では、<地球=自然、の歴史>のなかで大気と鳥の進化を位置づけ、そういった鳥の目からみて環境をどう評価できるのかを論じたいと思います。キーワードは、大気・酸素・二酸化炭素・窒素・水・光合成・呼吸・恐竜・鳥・食物連鎖・競争・美的進化・循環・相互作用系・ダム事業等々になるのではないかと考えています。